



令和4年度 9月号 校長 饗場 宏

上の写真は、PTA 奉仕作業での一コマです。お陰様で、排水溝の泥や雑草がなくなりました。ありがとうございました。

「全国学力・学習状況調査」の結果を糸口に 東小学校児童の姿を捉える 地域とともにある東小学校

今号では、4月19日(火)に全国で一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について報告いたします。この調査は6年生が対象ですが、結果は本校児童全体の傾向として捉えます。調査の内容は、教科に関する調査(国語・算数・理科)と生活習慣や学習環境に関する質問紙調査の2つです。また、調査の目的は、①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。③そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。*とされています。

それでは、以下に、本校児童による調査結果の概要と今後の取組等についてお知らせします。*文部科学省 HP

教科に関する調査から(県平均・全国平均との比較・見いだされた課題)

- ① 本校は、3教科とも、県・全国に比べ高い「平均正答率」でした。
- ② 授業改善に向けて取り組むべき課題として明らかになったものは、次のとおりです。

(国語) 学習指導要領の3領域(「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」)とも平均正答率は県・全国に比べ高いものの、「書くこと」にかかわる設問群から、求められたことに正対する解答を書くことに課題があることがわかりました。

(算数) 次の設問から、「割合」と「数量」との関係についての理解に課題があることがわかりました。
設問 2(3) 数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかを問う
また、次の設問から、示されたプログラムの読み取りに課題があることがわかりました。
設問 4(4) 示されたプログラムでかくことができる図形を選択することができるかを問う

(理科) 3つの問題形式(「選択式」「短答式」「記述式」)とも平均正答率は県・全国に比べ高いものの、「記述式」の次の設問から、示された条件を満たしながら解答を書くことに課題があることがわかりました。
設問 2(4) 凍った水溶液について、試してみたいことを基に見いだされた問題を書くことができるかを問う
設問 3(4) 実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができるかを問う
- ③ 国語「書くこと」や理科「記述式」問題に関する結果から、根拠や具体例等を基にして自分の考え(たこと)を文章にまとめるというスキルの向上が必要であることがわかりました。算数からは、「割合」の概念をより確実に定着させる必要性とともに、「プログラミング的」に考える学習経験をさらに増やす必要性が明らかになりました。いずれも低学年からの学習の積み重ねが大切ですので、全学年において、授業改善のための重要なポイントとして取り組んでいきます。

裏面もあります

質問紙調査から(県・全国の状況と比較して)

質問紙調査の結果概要は、次のとおりです。自分自身への肯定感や、学校や地域への肯定感の高さがうかがえます。改善したい状況に挙げた各項目は、子どもだけでなく、大人の課題でもあるのではと、考えさせられます。

望ましい状況	※()は質問に付された番号です
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている	(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きている
(4) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている	
(7) 自分には、よいところがあると思う	(8) 先生は、よいところを認めてくれていると思う
(10) 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている	
(11) 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	(12) 人が困っているときは、進んで助けている
(13) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	
(14) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	
(16) 学校に行くのは楽しいと思う	(17) 自分と違う意見について考えるのは楽しい
(20) 家では自分で計画を立てて勉強をしている	(26) 読書は好き
(28) 地域の大人(習い事の先生は除く)に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある	
(30) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	
(39) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	
(40) // 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	
(41) // 自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた	
(42) // 自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	
(43) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	
(44) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている	
(45) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	
(46) 学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	
(47) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	
(48) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	
改善したい状況	※()は質問に付された番号です
(1) 朝食を毎日食べている	(9) 将来の夢や目標を持っている
(27) 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある	(29) 今住んでいる地域の行事に参加している

※「(15) 人の役に立つ人間になりたいと思う」「(18) 友達と協力するのは楽しい」の結果は、県・全国とほぼ同じで望ましい状況でした。なお、回答を選択する質問および調査対象教科に関する質問の紹介は省略しました。

教科に関する調査と質問紙調査とを関連させた考察

教科に関する調査の結果(正答率)と質問紙調査の結果(「時間」に関する質問5つ)を関連させ、児童の姿を分析してみました。その結果は、次のA~Eのとおりです。 ※()は質問に付された番号です

- A 「(5) 平日のゲーム時間」が短い児童は、3教科の正答率が高い傾向にある。
- B 「(6) 平日のSNSや動画視聴時間」が短い児童は、3教科の正答率が高い傾向にある。
- C 「(21) 平日の学校以外の勉強時間」が短い児童は、3教科の正答率が低い傾向にある。
- D 「(22) 土日の学校以外の勉強時間」は、3教科の正答率との間に、有意な特徴は見当たらない。
- E 「(37) 平日のICTを使った勉強時間」が短い児童は、3教科の正答率が高い傾向にある。

A・Bから、ゲーム時間やSNS・動画視聴時間と学習の定着との間に有意な関連がみられました。放課後の過ごし方について、ぜひ、ご家庭でお子さんと話し合う機会を設けてください。

Cからは、家庭学習の大切さが明らかになりました。家庭での学習習慣の定着がさらに進むよう、学校でもご家庭でも、引き続き応援していきたいと思えます。



←本校が期待する
「家庭学習」に
ついての説明動画

Dからは、土日の勉強よりも、平日の勉強の方が有効なのではということがうかがえました。

Eからは、家庭でのICTを使った学習のあり方を再検討すべきという課題が見いだされました。ICTの活用と学習成果の定着が結びつくような学び方等を校内研究として取り組んでいきたいと思えます。

この結果を地域やご家庭の皆さまに共有いただき、皆さまとともに、児童の健やかな成長を期す「地域とともにある学校」を創り上げていきたいと思えます。本校教育活動への変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。